第5回ノアンフェスティバルショパンインジャパンピアノコンクールパスポート賞 ②中嶋千代さん

受賞者体験レポート②～ノアンフェスティバルショパン 2025 年 7 月編～

2025 年夏、「ノアンフェスティバルショパン 2025」に一週間参加させて頂きました。まさか自分がフランスに、しかもフェスティバルに参加するためにフランスに行くとは夢にも思っていませんでしたので、期待と不安でいっぱいでしたが、今振り返るととても充実した、実りのある 1 週間でした。

フェスティバルでは毎日ショパンに関する様々なプログラムが 3 つから 4 つ組まれており、イヴ・アンリ教授による若手ピアニストのレッスンの聴講や、俳優さんとピアノ演奏による朗読劇、著名なピアニストによるコンサートなど、音楽三昧、ショパン三昧の毎日を過ごしました。

アンリ教授のレッスンは、ステンドグラスの美しい小さな古い教会で行われます。スクリーンにピアニストの手元や楽譜が写し出されたり、現代プレイエルとロマン派時代のオリジナルプレイエルの両方が用意されていたり、とても考えられたレッスンでした。アンリ教授は、ショパンとノアンやジョルジュ・サンドとの関係や、課題曲の解説や、作曲に至る過程などを、私たち客席に向けてとてもわかりやすく解説されていました。聴講者にはフランスや隣国からの一般の旅行客が多くいらしていて、フランス語で話されるアンリ教授の解説はウィットに富んでいるらしく、客席から笑い声が度々おこっていました。レッスンは今回のノアン賞の島田瑚子さんと、フランスから 1 名、ポーランドから 1 名の 3 名が受講されていました。アンリ教授は中間部からレッスンを始めることが何度がありました。中間部ををじっくり丁寧にレッスンしてから冒頭に戻ると、その関連がとてもよくわかりました。また、左手だけを取り出し、左手をさらに声部ごとに分解して、バスや内声の動きや和声を分析して、最後にペダルをどうするか、細かく指導されていました。受講生が左手を弾いて、アンリ教授がメロディーを弾く連弾のようなレッスンでは、アンリ教授の音楽そのものを直に感じられる内容でした。古い教会でオリジナルプレイエルで奏でられるショパンの音色は、現代のコンサートホールでは聴くことができない、とてもノスタルジックで繊細な響きで、言葉では言い表せない感銘を受けました。この響きを念頭にショパンは作曲したのだということを、初めて実感しました。

ジョルジュ・サンドの館で行われる朗読劇では、俳優さんがジョルジュ・サンドとドラクロワの書簡を読み上げながらストーリーが進みます。合間にショパンのピアノ曲が流れると、サンドの言葉とショパンの音楽による言語が重なり合うようでした。また、羊小屋ホールでは毎晩、素晴らしいピアニストによる、ベヒシュタインのピアノコンサートが行われます。拍手とブラボーの嵐で一日が締めくくられるのでした。

ノアンという地で非常に濃厚な 1 週間を過ごして、経験することの重要さ、有難さに気づきました。このような機会を与えてくださったベヒシュタイン・ジャパンの皆様とアンリ教授、審査員の先生方に感謝申し上げます。島田瑚子さんとご両親、戸畑さん、野口さんと一緒に参加できて心強かったです。出発から帰国まで色々助けて頂いたのと同時に、とても楽しい時間を過ごすことができました。現地のホテルやスタッフの方にも大変お世話になりました。

これからもノアンフェスティバルおよび、ベヒシュタイン・ジャパンの益々の発展をお祈りし、より多くの方にこのコンクール、およびノアンフェスティバルのことを知って頂けるよう願います。

第 6 回ノアンコンクール予選 2026 年 12 月中旬締切、
本選は 2027 年 4 月 23 日～ 25 日開催予定。
お問合せ：competition@bechstein.co.jp

nohant FESTIVAL Chopin Un romantisme nature

C. BECHSTEIN JAPAN